

# 長徳寺阿弥陀如来立像

(ちょうとくじ あみだによらいりつぞう)

板橋区指定有形文化財(歴史資料)

平成5年3月24日指定

長徳寺は、不動明王を本尊とし、挙一山遍照院と号する真言宗寺院で、建久年間(1190～99)に中興開山したといわれています。

この阿弥陀如来像は、昭和23年(1948)に当寺に寄進されたもので、元来は平泉中尊寺に安置されていたという伝承があります。

当像は、来迎印を結んだ立像で、本体は一本の木材から彫り出された、いわゆる一木造となっています。頭部の螺髪は小さく、髪際は一文字に切り付けられ、また、彫られた両目を伏し、口許に微笑みをたたえるなど穏やかな面相をしています。腹部を軽く膨らませた体軀や、浅く刻んだ衣文の表現などは平安時代後期の藤原様式を示し、12世紀頃の製作と考えられます。ただし、両手首、両足先、白毫に加え、光背、台座部は後世の作となっています。

当像は、区内では数少ない平安時代後期に造立された仏像で、美術史的にみても重要な文化財です。

所在地：板橋区大原町40-7 長徳寺  
交通：東武東上線「本蓮沼駅」徒歩9分  
国際興業バス「小豆沢」徒歩6分  
[高島平操車場・高島平駅⇔池袋駅西口(池20・21)]

